三重大学高等教育研究論文タイトル†  
－論文副タイトル－

三重大 学\*・大学 みえ\*2

三重大学○○学部\*・津大学高等教育センター\*2

これは三重大学高等教育研究に投稿する論文のテンプレートです．ここには要旨を入力します．論文の場合は400字以内，ショートレターの場合は300字以内で入力してください．詳しくは，下記2.7の要旨の項を参照のこと．・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

キーワード：○○○○，××××，△△△△，□□□□，○○○○

1. はじめに

これは三重大学高等教育研究の論文，及びショートレターのテンプレートです．記述の際は，このテンプレートを使用するか，このテンプレートの形式スタイルに従って記述してください．

1. 執筆要項について
   1. 原稿とページについて

原稿はA4サイズとし，Microsoft Wordなどの文書作成ソフトで作成し，編集委員会に電子ファイルを提出する．高等教育研究の構成は，論文とショートレターおよびその他とする．原稿の長さは，和文の場合，本文が1ページあたり24字×46行，横2段組とする．欧文の場合，段組なしでも可とするが，1ページあたり46行とする．

論文は，刷り上がりA4サイズ8～12ページ程度（表題，用紙，図表，写真等全てに含む）とする．ショートレターは，刷り上がりA4サイズ4ページ以内（表題，用紙，図表，写真等全てに含む）とする．その他については，論文・ショートレターの他に寄稿論文などは編集委員会の判断によって掲載する．

* 1. 文章表現

原稿は，原則として横書きとし，常用漢字・現代かなづかいを用いる．

* 1. 句読点

句読点は，全角「，」（カンマ）と「．」（ピリオド）を用いる．

* 1. フォント

フォントサイズは見出しを10.5ポイント，本文を10.5～10ポイントとする．その他タイトル等はテンプレートを参照のこと．文章中，部分的に表現を変更したい場合（例　話者のセリフなど），ポイントサイズを下げるのではなく，フォントの種類を変更するなどで表現すること．

* 1. ヘッダーとフッター

ヘッダーとフッター部分については，採択後に編集委員会が入力するので，編集する必要はない．

* 1. 原稿の冒頭

原稿の冒頭には，題名，著者名，所属機関を入れる．題名は，論文等の内容が明確に分かるようにし，「第○報」等は含めない．また，論文の末尾に，著者名，題名，所属機関および所在地を英語で入力する．

* 1. 要旨 （SUMMARY）

論文の場合は，400語以内の要旨とその英訳SUMMARYを付ける（英訳SUMMARYは文末につける）．ショートレターの場合は，300字以内の要旨のみを付ける(英文SUMMARYは不要)．

* 1. キーワード

論文の場合は，5～6語の和文および英文のキーワードを付ける．ショートレターの場合は，和文のみを付ける(英文キーワードは不要)．

* 1. 本文

「はじめに／序論」，「本文内容」，「まとめ／結論」の順に記述することが望ましい．

* 1. 謝辞

謝辞はまとめ／結論の後に記述する．このテンプレートを参照のこと．

* 1. 注

注が必要な場合，論文の最後，参考文献の前に一括して入れ1)，本文中の該当箇所の右肩に１），２）のように示す2)．このテンプレートを参照のこと3)．

* 1. 外国語

固有名詞以外の外国語は，できる限り訳語を用い，必要な部分は初出の際のみ原綴を付する．

1. 参考文献

本文中での参考文献の引用は，次のようにする．

　　(例) YAMAMOTO(2016a)は………

　　　　　SUZUKI（2016）は………

　　　　　………と述べている (YAMAMOTO 2016b)．

　　　　　………と述べている（鈴木 2008）．

なお，著者人数によって，下記のような表記とする．

単著の場合，(山本 2016)および(YAMAMOTO 2016)

二名の著者の場合，(山本・鈴木 2016)および(YAMAMOTO and SUZUKI 2016)

三名以上の著者の場合，(山本ほか 2016)および(YAMAMOTO et al. 2016)

* 1. 参考文献の書き方
     1. 単行本の場合

順番に，著者名，発行年，書名(二重カギ括弧)，発行所

（例）

松下佳代 (2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房.

順番に，著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)

（例）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

* + 1. 雑誌論文の場合

順番に，著者名，発行年，論文題目(一重カギ括弧)，雑誌名(二重カギ括弧)，巻(号)数，掲載ページ．なお，複数の和文著者名は「・」でつなぐ．

（例）

山本俊彦・三谷千尋 (2004)「子どもの学びを大切にした小学校体育授業における一考察」『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』24，155-164.

順番に，著者名，発行年，論文題目，雑誌名(イタリック体)，巻(号)数(巻数はイタリック体)，掲載ページ

（例）

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change, 27(6)*, 12-25.

* + 1. 翻訳書の場合

順番に，原著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)，原著者名(カナ名)，訳者名，翻訳書発行年，翻訳書名，翻訳書の発行所

（例）

Barbara J Duch et al.(2001).*THE POWER OF PLOBLEM－BASED LEARNING A Practical “How To” for Teaching Undergraduate Courses in Any Discipline*, Stylus Publishing. ダッチ・B・Jほか(三重大学高等教育創造開発センター訳)(2016)『学生が変わる　プロブレム・ベースド・ラーニング実践法 学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』日本.

* + 1. インターネットからの引用の場合

順番に，著者名，ページのタイトル，URL，引用者の最新アクセス日

（例）

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

1. 図や表，写真について

図や表，写真等は原稿末尾にまとめることはせず，それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする．本文とは別に鮮明な原稿を作成し，本文中にその挿入箇所を指示しておく，もしくは図表写真を縮小表示して挿入しておくこと（表1と図1を参照）．

図表の幅は，1段または2段のいずれかとし，両脇に余白が生じても文字を入れない．

図および表には，通し番号を付し，表の表題は表の上部に，図の表題は図の下部に記入すること．なお，図および表が一つの場合にも，図1または表1と記す．図表と文章本体との間には1行程度の空白を設けて区別を明確にすること．



1. 印刷について
   1. 別刷りについて

　投稿者が別刷りを希望する場合は，対応することが可能である．ただし，冊数は30部以上とし，別刷りにかかる金額は投稿者が負担すること．

* 1. カラー印刷について

　投稿者が本文や図表にカラーを使用したい場合は対応することが可能である．ただし，カラー部分の金額は投稿者が負担すること．

謝辞

　このテンプレートを作成するにあたり，学内紀要や学外論文誌等のフォーマットを参考にさせていただきました．関係者の皆様にはこころより感謝申し上げます．また，日頃よりお世話になっている地域人材教育開発機構（旧高等教育創造開発センター）の先生方には，丁寧で迅速な査読をいただきました．こころより感謝申し上げます．

注

1)注の挿入例です．

2)注の挿入例です．

3)注の挿入例です．

参考文献

Barbara J Duch et al.(2001).*THE POWER OF PLOBLEM－BASED LEARNING A Practical “How To” for Teaching Undergraduate Courses in Any Discipline*, Stylus Publishing. ダッチ・B・Jほか(三重大学高等教育創造開発センター訳)(2016)『学生が変わる　プロブレム・ベースド・ラーニング実践法 学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』日本.

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change, 27(6)*, 12-25

松下佳代 (2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房.

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日).

山本俊彦・三谷千尋 (2004)「子どもの学びを大切にした小学校体育授業における一考察」『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』24，155-164.

SUMMARY

English summary xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxx xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxx, x xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xxxx, x xxxxxx xx xxxx xx.

KEYWORDS: ○○○○, ××××, △△△,□□□□, ○○○○

（ショートレターの場合，英文SUMMARYと英文キーワードの作成は必要ありません．）

――――――――――――――――――――――――

† MIEDAI Manabu \* and DAIGAKU Mie \*2 : English Title（英文タイトル）

\* Faculty of ○○, Mie University 0-0-0 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 000-0000 Japan

\*2 Center of Higher Education, Tsu University 0-0-0 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 000-0000 Japan